

中央検査部 表彰一覧

市立函館病院 中央検査部では様々な領域の認定資格を取得し、

関連学会の学術賞も多数受賞しています。

さらに新聞社や雑誌などのメディア取材も受けています。



上：検体検査部門

(細胞検査士・認定骨髓検査技師・認定血液検査技師・NST 専門療法士・認定遺伝子染色体検査師・

二級臨床検査士・一級遺伝子分析科学認定士・認定認知症領域検査技師・認定病理検査技師など)



上：輸血・細胞治療センター（認定輸血検査技師・細胞治療認定管理師）



上 2 枚：生理検査部門（超音波検査士・認定心電検査技師・血管診療技師など）

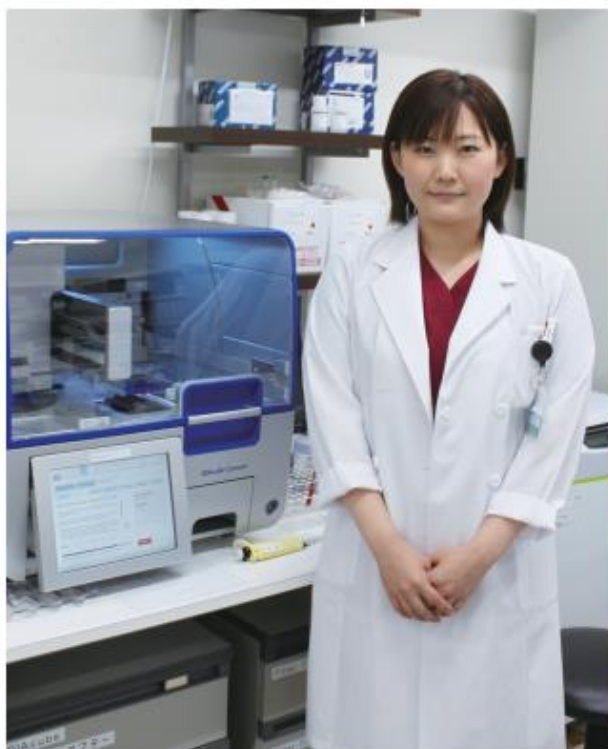
topics
news

「認定認知症領域検査技師」試験に合格

患者と家族の不安軽減や正確な検査の実施に努める

市立函館病院
中央検査部遺伝子細胞生物検査センター

なかがわ ちさと
中河 知里



「認定認知症領域検査技師」試験の内容を教えてくれる
中河知里さんと全自動の核酸抽出・精製装置

市 立函館病院の臨床検査技師、中河知里さんは昨年12月に行われた難関資格の「認定認知症領域検査技師」試験に合格した。厚生労働省は、日本の認知症高齢者は2025年には約700万人に達すると予測しているが、認知症を喫緊の課題と位置付けて、認知症施策推進総合戦略（新オレンジプラン）を策定するなどさまざまな施策を打ち出している。認知症対策においては早期発見と早期治療はきわめて重要であるが、その中でも臨床検査は大きな役割を担っている。

中河さんが取得した認定認知症領域検査技師は2014年に創設された。試験内容は臨床検査の部分だけでなく認知症の概念や予防・治療での考え方や幅広い知識が求められる。今までの臨床検査技師が関係してきたさまざまな認定資格のような「特定の技術」だけを認定する資格ではなく、疾患領域での知識と技術を問う認定資格試験であることが特徴となっている。中央検査部遺伝子細胞生物検査センターに所属する中河さんは「仕事の内容は白血球などの血液疾患やリンパ腫関連の検査、それらに付随した遺伝子

検査などの検体検査業務を中心に新型コロナウイルスのPCR検査も行っていきます」と話す。「現在は遺伝子検査部門の他に、がんゲノム医療コーディネーターも兼任していますが、この業務の一つにがん遺伝子パネル検査の説明業務があります」。がん遺伝子パネル検査の内容は一般の人にとっては難しい専門用語が多く、それをわかりやすく説明することはコーディネーターの重要な役割の一つだ。

「がん遺伝子パネル検査の希望者は比較的高齢者が多く、また日々の業務に軽度認知障害（MCI）や認知症の患者さんに説明をする機会が増えることが考えられます。そのためにも認知症に関する知識を身につけたいと考えて、認定認知症領域検査技師の試験を受験することにしました」

3人の子どもの母親でもある中河さんが勉強する時間は夜遅くなど限られている。また、受験前の時期はPCR検査が集中するなど、翌朝まで勤務が続くこともあった。この資格の取得者は函館・道南地区では中河さん1人だけで、職場の後輩が続くことを期待している。「認知症には100種を超えている原因疾患があり、それぞれの対応が異なることもわかりました。この資格を取得したことで、患者さんやご家族の不安の軽減や正確な検査の実施を行うことができるように努めていきます」

難関資格の遺伝子分析科学認定士1級に合格

誤判定が起こる場合もあるPCR検査は他の所見も考慮

市立函館病院中央検査部臨床検査科
遺伝子細胞生物検査センター主任技師

小笠原 愛美



PCR検査で一度に多くの検体を調べる事ができる検査機器(Cobas z480)について説明をする小笠原愛美さん



クリーンベンチ内でPCRの検査中

市

立函館病院（森下清文院長）
遺伝子細胞生物検査センター
主任技師の小笠原愛美さんが、
遺伝子分析科学や遺伝子関連検査に関
わる難関資格の遺伝子分析科学認定士
1級に合格した。これまでの1級合格
者は全国で31人、道内では北海道大
病院の2人に次いで3人目だ。

日常診療において遺伝子検査は、確
定診断や予後診断に幅広く利用されて
いる。遺伝子検査によって得られた結
果は診断的価値が高いことから、検査
の実施方法と結果の解釈には高い精度
が求められている。遺伝子分析科学認

定士制度は、このような遺伝子検査を
行うために設けられた制度である。2
007年に第1回の初級試験が実施さ
れ、初級合格者がさらに5年以上の研
鑽を積んだ後に取得する1級試験が2
012年から実施されてきた。

既に初級に合格している小笠原さん
は昨年1級に挑戦。試験は多肢選択形
式の筆記問題、実技試験、英文和訳が
出題された。「動画を用いた実技の問
題や苦手な英語に苦戦したことで、時
間が足りなくて合格ラインには達して
いない」と半ば諦めていたが、7月に
合格通知が届いた時は嬉しさが声が出

たほどだったと話す。「3歳の子ども
を寝かせてから試験勉強を続けてきま
したが、その努力が報われました」

小笠原さんが所属する遺伝子細胞生
物検査センターは従来の臨床検査に加
え、細胞表面マーカー検査、遺伝子検
査など、これまで一般の病院で実施す
ることが難しかった専門性の高い検査
を導入するため、2004年度に新設
された。

「2020年2月から新型コロナウイルス
イルスPCR検査を院内にて開始しま
した。24時間365日PCR検査依頼
に対応するために新たな遺伝子解析装
置や核酸抽出装置などを導入し対応を
行っています。15分の迅速診断が可能
な機器や一度に複数の検体（96件）を
調べる機器など、検査の要領等に応じ
て使い分けています」。道内で4種類
ものPCR検査機器を導入している医
療機関は珍しい。同センターでは20
20年2月から2021年9月まで3
千件以上の検査を行ってきた。

PCR検査は検査結果だけを鵜呑み
にするのは危険だと小笠原さんは強調
する。「さまざまな要因によって結果
の誤判定が起こる場合があります。他
の所見も考慮して結果の解釈を行うこ
と。そして疑わしい反応の時は再検査
を行うことが必要です」。今後は資格
試験で得た知識や技術を「がんゲノム
医療」に生かしていきたいと抱負を語
っている。



齋藤泰智さんとフローサイトメーター（日本ベクトンディッキンソンのBD FacsLyric）

市立函館病院は最新のフローサイトメーターを導入

白血病や悪性リンパ腫など

血液疾患の早期診断・治療に活用

市立函館病院（森下清文院長）の中央検査部遺伝子細胞生物検査センターは遺伝子検査の他に「フローサイトメーター」を導入し、血液疾患の早期診断と早期治療に結びつけている。遺伝子細胞生物検査センター主査の齋藤泰智さんはフローサイトメーターを「数秒から数分という短時間で数千個から数百万個の細胞を1個ずつ定量測定する統計的精度の高い細胞測定法で、光や光センサーなどを用いて、細胞を観察し細胞ごとの複数の測定情報から相関解析と統計解析を行う検査機器」と説明する。フローサイトメーターの主な用途は白血病や悪性リンパ腫などの血液疾患の患者の検体（血液・骨髄液・リンパ節などの組織）を用いた細胞表面抗原の解析に活用されている。

血液内科のある同病院は、小さい帯血バンクネットワークより小さい帯血移植実施施設、また日本骨髄移植推進財団（骨髄バンク）より非血縁者間骨髄移植実施施設及び非血縁者間骨髄採取施設の認定を受けた。北海道内では6番目、道南唯一の非血縁者間骨髄・さい帯血移植病院として、骨髄や末梢血幹細胞移植、ミニ移植等の造血幹細胞移植医療の発展に寄与して

関連学会表彰

(過去3年分記載)

・令和6年度

第73回医学検査学会（金沢）

優秀論文賞

遺伝子細胞生物検査センター 高屋 絵美梨



・令和5年度

第64回日本臨床細胞学会総会（春季大会）

一般演題（示説） 優秀演題賞

病理研究検査センター 佐藤 大樹

